

天塩川水系河川整備計画（原案）
に関する公聴会

日時：平成１９年２月２７日（火）１３：３０～１５：２０

場所：上川北部地域人材開発センター

天塩川水系河川整備計画（原案）に関する公聴会（名寄市：午後）

＊井 田

それでは午後の公述に先立ちまして、会場の皆様をお願い申し上げます。

お持ちの携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードにしてくださいよう、お願い申し上げます。

また、公述に入ってからフラッシュを使用した写真撮影並びに傍聴席前での撮影はお控えいただくよう、ご協力をお願い申し上げます。

なお、あらかじめ公述人の方々にはご了解をいただいておりますけれども、私ども事務局で、公聴会の記録のために撮影と録音等を行わせていただきたいと思います。議事録等につきましては、後日、当部のホームページで公表いたします。

それでは、ただ今から天塩川水系河川整備計画（原案）に関する午後の公述を始めます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私、本日進行を務めさせていただきます旭川開発建設部で治水課長をしております井田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、午前に引き続きまして、午後の公述を始めたいと思います。

公述される方には、お手元の公述人名簿に記載させていただいて

おります。400件余りのご意見が寄せられておりまして、その中で天塩川流域の市町村にお住まいの方で公述を希望された方は、全部で60名いらっしゃいまして、本日は60名の方全員に公述いただきます。当会場で公述される方は56名でございまして、午前には19名の方が公述されました。これから午後に18名、夕方に19名の方に公述していただく予定でございます。なお、別の幌延会場の方で、4名の方に公述していただく予定となっております。

次に、公述の方法についてご説明いたしたいと思っております。既に公述人の皆様にはお知らせしたとおりでありますけれども、公述をなさる方は、あらかじめ提出していただいている意見書の範囲内で公述をしていただきたいと思います。

公述時間は、1人当たり7分以内とさせていただきます。これにつきましては、公述開始後5分で1度合図、予備鈴を鳴らしたいと思っております。残り2分ということになりますので、時間内で公述を終了していただきますようお願い申し上げます。また、7分を経過したときにも合図をいたします。速やかにまとめていただくようお願い申し上げます。

公述は、名簿順に18名の方、続けてお話していただきます。

また、傍聴される皆様方にお願いがございます。本日の公聴会では、傍聴される方は、意見などを述べることはできません。発言等は控えていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、早速ですけれども、公述の方に入ってまいりたいと思っております。

初めに、士別市からお越しになった石垣量三さん、よろしくお願い

いたします。

＊石垣量三

1 番目に紹介いただきまして、こういう高い席から余り話したことがありませんので、喉が渇きますので、ちょっと水を持ってまいりました。

先ほどご紹介いただきました士別市在住の石垣と申します。ちょっと年は食っておりますけれども、リバーネットの会に入会してから、まだ1年ちょっとと新参者です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の天塩川整備計画は、北海道開発局の優秀なメンバーの方々が、それぞれ天塩川の最上流から日本海の天塩町の河口まで、治水・利水、それから発電等を専門的な立場から、河川工学等の知識なども駆使しながら、かなり時間もかけた末、まとめ上げたものと推察されます。このことについては、私どもも一般的な中身を読んでいくほどに、ただただ難しいことばかりで、驚くばかりで、とても意見を差し挟むものではありません。しかし、もしごく些細なことで、この大きな計画書の中では見落としされるような部分でもあればと考え、書いてみることにいたしました。

私は、相当以前から魚釣りが好きです。本格的に始めてから30数年経つわけであります。魚釣り仲間ではいろいろなタイプがありまして、非常に専門的で綿密で、魚のことや河川、湖沼のこと、その他道具のこと、天候のことなど、釣りに関する全てに対して、とても神経質な人がおります。これに反しまして、非常に感覚的で、

そんなことはどうでもいいよと、上記のことには余りこだわらない、運動神経そのもので釣りを楽しんでいる人もいます。若いときには、私はどちらかというと後者のタイプで、しかし、年を重ねるにつきまして、少しずつ前者に傾くようになり、今はどちらかという、少し理屈っぽく専門的なことに興味を持つようになりました。

さて、前置きはそのぐらいいたしまして、今回、私は次の二つのことについて意見を述べたいと思います。もちろん私はリバーネットの土別支部会員ですから、範囲は風連町20線の堰堤、あそこから上流のことについて考えてのことです。

第1番目ですが、この計画書の中にも非常に詳しく書いてあるんですが、魚道に関して、少々意見を申し上げたいというふうに思います。

風連の20線の堰堤から朝日の一番奥の東土別頭首工というところまで、七つの堰堤があります。このうち、いつでも魚が遡上できる魚道を持っている堰堤は三つ、そのうち一つは下土別頭首工で、現在造成中です。3月に完成ということであります。ということで、残りの四つも整備計画に入っておりますが、この工事期間はこれから30年、非常に気の長い話で、私はこれができるときには、多分生きていないというふうに考えております。しかし、完成した暁には、計画書にも載っておりますが、サクラマスあるいはカラフトマス、それからシロザケ、これが大体5月、6月、8月、9月ごろから、もし完成したときには、岩尾内ダムの下まで、それぞれの間の小河川がいっぱい天塩川に流れ込んでおりますが、そういうところに産卵に適当な上流を目指して遡上してきます。シロザケだけ

は、多分天塩川本流の朝日町あたりで産卵場所を求めることになるのではないのでしょうか。シロザケは余り水深のない、流れが緩やかな、中ぐらいの玉砂利を敷き詰めたようなところに産卵場所を探して産卵します。サクラマスは、途中にある小河川に入って、かなり上流まで、水のほとんどなくなる源流のそばまで上って行って産卵すると思われます。稚魚が成長して体長が10cmか12、3cmになったぐらいで、大部分のメスと、オスの一部は天塩川を延々と下って海に出ます。川に残るサクラマスの子は、通称、皆さんもご存じのヤマベというやつです。当然このヤマベは釣りの対象魚で、小河川と本流を行き来するので、川はヤマベの非常に豊かなすばらしいフィールドになることは間違いありません。ヤマベを求めて大勢の釣人が集まり、当然のことながら、この沿川にある、土別を含む市町村に経済的効果が落ちることは想像に難くありません。

魚道のことを少しお話したいんですが、魚道と一言で表現しても、我々の常識では、春夏秋冬、いつでも魚が上れるというものでなければなりません。堰堤の水門の一部を倒して段差をなくしたときだけ魚が上れる装置は、魚道とは我々は言えないと思います。これは前述のサクラマスやサケのためだけでなく、ウグイやドジョウ、アメマス等も行き来しますので、本当の意味の魚道がなければ、こういう小魚までも減少させてしまいます。

*井 田

石垣さんすみません。7分経ちましたのでそろそろまとめに入っていたいただければと思います。

* 石垣量三

そういうことで、しっかりした魚道を、30年は経たないと思いますけれども、造っていただきたいということです。

もう一つ、一番気になること、これをちょっとお話しておかなければなりません、それは天塩川の水位です。毎年9月以降になると、極端に水が減ってしまいまして、最も上にある東士別頭首工の辺りは、皆さん余り行ったことがないと思いますが、河原が出て小川のようになってしまいます。長靴を履いて、どこでもずっと歩けるようになってしまうわけです。こういうことでは、せっかく魚道ができて、魚は余り増えないし、成長しないというふうに私は考えます。整備計画にも書かれていないので、ぜひご考慮いただきたい。

9月以降のダムの放水を止めることにはいろいろと理由があって、なかなか難しいことだと思いますが、魚のためには、水位が常に一定でなければならないというふうに私は考えております。どうかこの点について、ぜひどうしたら天塩川の水位が上がるのかということについて考えていただきたいと思います。

まだありますか。

* 井 田

最後のまとめをしていただければと思いますが。

* 石垣量三

これはちょっと仲間から聞いた話なんですが、天塩川のずっと河

口の方に行きますと、昔は水位が今と比べると2 mぐらい高かったと、それだけ深かったということを言っております。あそこには、まだ天塩川に余り釣り仲間では言ってもらいたくない話なんです、イトウが釣れます。イトウというのは、絶滅種に問われているもので、余りたくさんおりません。しかし、辛うじて天塩川の下の方にすんでおります。これも水位が余り減り過ぎると、増えるどころか、だんだん死滅してしまうのではないかと、非常に関心しております。

そういうことで、非常に簡単になりましたけれども、先ほどの魚道のことと、それから水位の話、専門的に私分かりませんが、ぜひお考えいただきたいということでもあります。

余り天塩川計画にそぐわないような話になって、魚の話ばかりになってしまいましたが、そういうことしか余り分からないので、ぜひ日本で一番魚種の、一番多いんですよ、日本で一番魚種の多い川、天塩川なんです。この川の名に恥じない、そういう川を今後も永久に守っていただくために、ぜひよろしく願いしたいし、そのために今回意見を申し上げました。大変粗雑なことになりましたけれども、以上をもちまして、意見を申し上げた次第であります。

どうもありがとうございました。

*井 田

石垣さん、もどうもありがとうございました。

引き続きまして、名寄市からお越しの入江和也さん、どうぞよろしく願いいたします。

＊入江和也

朔北の大河流域に住む私たちにとって、誇りとするところであり
ます。これだけ長い歴史を刻み、天塩川流域では鬱蒼とした未開地
の開墾が始まり、自然が織りなす河川の恵みと大地の恵みを巧みに
生かしながら、今日ある農地地帯など、各流域市町村が発展してい
ることに感謝しなければと思います。

しかし、これまでには、原始河川がゆえに、年々繰り返される河
川氾濫のため、貴重な生命・財産が失われることも多く、その記録
が残されていることも事実であります。私も子供のころ、川が氾濫
し、河岸が削られて田畑が浸水、家畜、そして橋が流失する、その
恐ろしさを目の当たりにし、また、家屋は流失寸前に水位が下がり、
水防作業されている人々の安堵されているその顔を、今でも鮮明に
覚えております。

天塩川水系の治水事業も、長年築かれた河川技術が生かされ、築
堤の新築、拡築、掘削などを行って河積を増大させ、護岸などを施
し、洪水の安全な流下を図る方策を築きながら、今日に至っている
と思います。

しかし、これまでに計画規模を大きく上回る大水害が発生したこ
となどから、洪水処理の方策として、引堤、河道掘削、築堤のかさ
上げなど、いろいろと検討されて、結論として、河川整備計画原案
に記されているとおり、基本高水のピーク流量を、流域内の洪水調
節施設によって調節すると記されているんだというふうに思います。

これまで、天塩川流域委員会の中で多くのことが議論され、その

ことが報道されております。しかし、身近にあるダムのかこれまでの貢献度を評価されたのでしょうか。昭和45年、岩尾内ダムが完成され、ダム下流の名寄川を含め、水位の低減効果が図られ、天塩川の洪水被害の軽減に、これまで大きな役割を果たしたことは、誰もが認めていることではありませんか。そのことは、ピーク流量の低減効果の賜物であると確信している一人でもあります。私たち流域住民にとって、心配のない日常生活と、安全・安心な生活活動に取り組む、また、農業者の方々がこれまでに経験された悲壮な訴えに備えるためにも、河川整備計画にある洪水調節機能を有するサンルダムの施設建設をぜひと考えます。

河川の目的に、治水・利水・河川環境整備と保全が位置付けられております。私は治水・利水があつての河川環境の保全になると考えております。

あるとき、身近な名寄川で、住民協働による水質調査に参加する機会を得ました。調査に参加し、水面の浮遊物、川底に付着する水生生物など新たな発見もあり、河川に対する関心を更に深めることができました。川底に付着する生物が魚の餌となり、魚などの生育環境の保全を担っており、河川の持つ自然の恵みに感謝した一日でもあります。しかし、夏の渇水期に名寄川下流の現状を見たとき、河床が露出し、水生生物の生息・生育に懸念を持たざるを得ませんでした。それは清流にほど遠いものがあります。現実として、名寄市では、水質悪化のため大量の活性炭などを使用し、良質な水道水の供給に努めていると報道されています。

このようなとき、水を一時貯留できるダムがあれば、必要とする

河川維持流量の安定供給が図られるとともに、河川環境の保全に大きく結びつくことを確信しております。食と水は命の根源であり、農業用水の確保、水道水の安全供給、水害のないまちづくりのために、ダムが必要不可欠であると訴えます。ある県では、ダムにかわる治水対策が難航し、必要なものは造ると、現実路線にかじを切ることによって、脱ダムの流れが大きく変わろうとしていると報道されました。

地球温暖化に伴い、北海道にも雪が降らない時代が来ると言われております。ダムは早急に必要とされるとき、短期間に築造できるものではありません。やっかみととられるかもしれませんが、大都会に住んでいる方々は大きなダムの水瓶を用意され、高層ビルに住み、洪水や渇水の心配もなく、河川環境の保全のみを心配されているのかもしれませんが、天塩川流域に住む私たちも、治水・利水・環境保全の大切さを学び、人の命の重さを大切にしていけるのです。縦覧した河川整備計画が早期に策定され、調和のとれた総合的な河川整備が推進されることを熱望します。

＊井 田

入江さん、どうもありがとうございました。

続きまして、和寒町からお越しの大石康広さん、どうぞよろしく願いいたします。

＊大石泰広

私は、天塩川水系最上流である和寒町で農業をしています。水田

の作付の多い本町では、天塩川から続く剣和幹線の水を利用していただいております。以前は川の水をポンプアップしたり、本流から流れるわずかな水を、同じ地区の農家と喧嘩になるほどの取り合いをしながら作付をしていたそうです。今では水路に豊富な水が流れ、素晴らしい環境で農業をさせていただいております。本当にありがとうございます。

和寒町には、恵水観音像というのが三笠山自然公園内に建立されていて、観音像が向いている方角は、天塩川上流の岩尾内湖に向いているそうです。湖から流れる水をながめ、豊かな大地を見守るかのような、何とも穏やかな表情で見下ろしています。小さいころは何も分かりませんでしたが、自分が農業を志し、いろんなことを周りから教わるにつれ、感慨深いものがあります。いつまでもこの剣和幹線が利用できることを思うばかりです。

続きまして、河川整備の話なんですけれども、この数年、1度に大量の雨が降るという傾向があるのと同時に、これは確認をしたわけではないのですけれども、高速道路が通って建設されたことにより、そこから流れる排水が、私のすぐ近くの一級河川に流れ込んでいるのではないかと思います。そのせいか、その川がそれまでにないほど増水しまして、水田排水を逆流して、私の家の田んぼに入り込むほどになることが、1年に1、2度起こるようになりました。普段は法面の草刈りなどで手間がかかる深い排水だなどぐらいにしか思っておりませんでしたが、このようなことが起これば、水田に水が入り込むまでのちょっとした遊水地でもあるのかなとも思いました。向かいの水田は堤防がこちらよりも若干低いため、堤防を超

えて水田に入り込んでいたこともありまして。雪解け時期より水量が増すことは、4、5年に1度あるかないかでしたけれども、このように多くなったことで、頻度は格段に多くなったと言えると思います。法面は崩れてしまっていて、流れてきたものが堆積し、木も生えていて、そのようなことが川の流れに影響を及ぼしたのではないかとと思います。

しかし、その川もこの年末年始に工事が入りまして、木や堆積物のないきれいな川になりました。これで流れもスムーズになって、今年もし大雨が来ても、これまでほどの増水にはならないのであらうと、少し安心しているところであります。

せっかく育てたものが水害によって被害に遭うのは、言葉にあらわせないほどの残念なことです。ましてや住宅浸水は決してあってはならないと思います。上流でこれだけの水量があれば、中・下流域となれば、川の合流などで水量が増すのは必至だと思います。流れをよくするのはいいのですが、それで下流域が水害になってしまっってはどうにもなりません。上流を整備して流量を調節できれば、なおいいことだと思います。そうなれば川の水も正常に流れ、水害のない川が誕生し、魚道も造れば川の遡上、また生息できるような豊かな自然環境ができるのではないのでしょうか。そのためにも一刻も早い治水環境の整備が必要であると私は考えます。

水害のない、きれいな川で地域の人たちが魚釣りをしている光景を早く見てみたいものです。この豊かな天塩川水系の自然を守り、なおかつ皆が安心して暮らせる地域にするための事業は、これからこの地域で生活する私たちにとって、必要不可欠なものと私は思い

ます。このことをもっとたくさんの人に理解してもらい、より早い実現に向けて進めていってほしいと思います。

これで私の意見発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

＊井 田

大石さん、どうもありがとうございました。

続きまして、士別市よりお越しの大江敏文さん、どうぞよろしくお願いします。

＊大江敏文

ご紹介いただきました大江と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて、私の住む町、士別の郷土史を振り返りますと、明治32年、屯田兵により入植以来、多くの入植者が開墾に励み、次第に増えてきましたが、たび重なる水害・冷害、そして干ばつにより、入植するも離散する人もまた多く数えたとあります。

私たちの地域は、天塩川と数多くの支川に囲まれた肥沃な大地と、天塩岳を中心とした豊富な木材が育つ豊かな山地もあり、たくさんの人の暮らしを育んできました。農業では、馬鈴薯の作付で大正時代に澱粉大国を築き、昭和35年に一市町村で最高の米の集荷数、30万俵を達成し、更には昭和43年、61万6千俵の収穫を達成することができ、単独市で全国一となり、大きく発展してきました。

しかしながら、一方、悲惨な洪水により人の命を奪われ、家屋を

奪われ、更には家畜の命も奪われてしまい、せっかく開墾した耕作地をも土砂で奪われてしまいました。更に天候不順による大冷害、更には干ばつと、その時々到大惨事が起き、人の暮らしを破壊してきました。そして、記憶に新しいところですが、昭和50年、56年と、収穫を目前にして、無残にも土砂と泥水に、お米が、野菜が壊滅的な被害を受けました。しかし、このときの災害は天塩川本流の災害ではなく、支流の川での災害で、昭和46年完成の岩尾内ダムと天塩川本流の河川整備事業のおかげで、私たちの地域にあっては、全くといっていいほど、人命の危険を感じることはありませんでした。しかし、依然として、中小河川の災害は毎年のように起きております。この現実を受けとめていただき、更に安全で豊かな暮らしができますよう、関係各位にお願い申し上げます。

さて、私たちの上流にあっては、保障された治水・利水対策に感謝いたしますが、川にすむ多くの生き物にとっても、川は心地良いところでなくてはならないと思います。流域の一住民として、川の中にすむ多くの生き物と豊かに共生できるように、今後も関わっていきたいと思いますが、これも天塩川の整備計画の実施なくしてはかないません。どうか一日も早い天塩川河川整備計画の決定と実施を願ってやみません。

また、これからは、天塩川流域に住む上流、中流、下流の人々と、天塩川とともに育まれてきたそれぞれの流域の人々の生活を顧みるとともに、私たちの町、士別にお住まいだった斉藤昌淳先生の短歌に天塩川がうたわれていますように、天塩川の上流、中流、下流、それぞれの流域の中で、大勢の方たちがその時代時代にそれぞれに

天塩川と関わり、そして暮らしてきたことを心して思いやり、今後
も天塩川流域に住む人たちが、まさしく天塩川という川一本で結ば
れていることを大いに意識し、人々が仲よく暮らしていけますよう
に願ってやみません。

以上、まとまりませんが、意見とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

*井 田

大江さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、名寄市からお越しの小平一郎さん、どうぞよろ
しく願いいたします。

*小平一郎

案内の手違いがあったのか、昨日ファクスで公述のオーケーが来
まして、もう外れたのかなと思っておりまして、それで今日ここで
大変厚い計画書をいただいたんですが、事前にもらっていても大変
厚い内容ですので、全部熟知するのは無理だと思いますけれども、
そういうことでお許しいただきたいと思います。

私は、一市民として、川やダムをどういうふうに考えているのか
なということで、深い科学的ないろいろなデータとか、そういうも
のはたくさん書かれておりますけれども、毎日暮らして水を利用し
ている者として、どんなふうに感じているだろうかなということの
視点から意見を述べたいと思っております。

教員をやっておりましたものですから、歴史の中で人類と川、そ

の文明の発展はどんなのかなんていうことを話しますと、子供たちは、川というのは、人間にとってかけがえのないものだし、文化や文明の源にもなっているということで、大変頭に子供たちもすっと落ちるんです。例えばメソポタミア文明はどの川だとかなんて言いますと、チグリス・ユーフラテス川だとかというのを、今日ここにいらしている方も、どこか記憶の片隅にあるのではないかなと思います。

そういうことで、川は有形・無形の恩恵を人々に歴史を長く何千年も与えてきたというふうに思います。ですから、名寄川も松浦武四郎が川を上りまして、当時のアイヌの人たちの生活なんかをまとめた文献も出ておりますけれども、そういう意味では、非常に切っても切り離せない関係を持っているなと思います。したがって、今も提案されている河川の問題は、そういう視点から見ても、私たちの暮らしと切り離すことはできないということで、地域住民ももっと関心を持ってもいいんじゃないかなと思っております。私も名寄の文化センターで、一昨年だったでしょうか、河川のこの問題についての集いがありまして、どんなになっているのかなということで行きましたけれども、非常に集まりが少なくて、そうなんだと、俺は余り関心を持っていないと思ったけれども、まだ関心を持っている方だったんだなと感じました。これはやっぱり多くの市民の皆さんが関心を持つべきものだなということで、これはどこでどのようにそういう啓蒙したらいいのかなということはあると思いますけれども、こういう活動も大事だなと思っています。

さて、私は河川の問題は、地域の再生といいますか、地域再生か

ら見た川というものがどのようにとらえられているのかなということを考えております。これは自然対象ですけれども、今夕張で地域再生ということで大変ご苦労なさっておりますけれども、この川の問題も、ここに面している地方自治体の地域とどんなふうな関わりを持つのかと。どういう視点から再生していくのかということを外してはいけないなというふうに思っております。最近はそういう地域再生の文書がたくさん出ておりますが、私も何冊か読みましたけれども、その中で一番大事にしなければならないのは、人権の問題だということを強調しております。人権が保障されるような地域づくりといいますと、そこに住み、暮らす全ての人々の人権が保障されるような地域づくりと、今の提起されている河川の問題がどんなふうに結びつくのかということを、はっきり示すべきだなというふうに思います。

ダムを造って大型ゼネコンが儲けたとか儲けないとか、補償金はどうのこうのという問題もあるでしょうけれども、それ以上に、そこにずっとこれから住み続ける、暮らし続ける人々の暮らしをどんなふうに保障していくのかということを考えてほしいなと思います。これは、私たちは、いずれこの地からいなくなります、消えますよね、この地上から。この人たちのその後の何代もの世代の後に、どんなふうにつながっていくかということをきちっとお示し願いたいと。中には書いてあると思いますけれども、ちょっと読んでいけませんので、そういう視点をぜひ押さえてほしい。

例えば千葉県の海浜ニュータウンというのがありますけれども、これは大企業に海を売ってしまったんだけれども、そのかわりとし

て、人工の砂浜を造ると、こういうようなちぐはぐなことも、行政の方はさぞ知っていると思います。造ってしまえばあとは責任ないというのではなくて、海を企業に売り渡しておいて、その償いとして人工の渚を造るのは、全く矛盾した話ではないかということのないように、そういう視点も大事にしてもらいたいなと思います。

5点ほど考えてきたんですが、素朴な疑問として、川にとってのダムとか、ダムにとっての川とか、人間にとっての川とか、人間にとってのダムとか、それがどういうふうに自然とマッチして、将来、宇宙規模で、先ほど温暖化の話もありましたけれども、本当にそれがどのように河川と関係があるのかということを、もうちょっと科学的に示してもらいたいと思います。

地球温暖化という話もありました。これは私も考えてきましたけれども、今、不都合な真実なんていう映画がありまして、それで地球温暖化について非常に問題を提起しているようですから、この視点もぜひ今後取り入れていただきたいなと思います。

さて、最後になりますけれども、住民の不安を取り除いてほしいと。ちゃんとしないと洪水になって大変だぞというような、不安をあおるようなやり方は私よくないと思います。そんなことはしていないと思いますけれども、そういうようなことにならないように、ぜひ心してほしいと思います。

最後ですが、ぜひ人権が保障されるような、暮らしが保障されるような進め方をしていただきたいということを申しまして、発言にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

＊井 田

小平さん、どうもありがとうございました。

続きまして、下川町よりお越しの小林大生さん、どうぞよろしく
お願いいたします。

＊小林大生

下川町から参りました小林と言います。

私の住む下川では、これまで名寄川、サンル川において、幾多の
洪水被害がありまして、これまた堤防整備、あるいは樋門設置など
の河川整備が行われてきたところでありますけれども、それでもな
お集中的な降雨の際には、局所的に内水の氾濫が起こる状況にあり
ました。しかし、近年の世界的な異常気象によりまして、短時間で
集中的に非常に強い雨が降ることが多くなりまして、大雨による洪
水が各地で発生しているところであります。下川も当然例外ではな
く、洪水被害が顕著にあらわれるようになりまして、昨年において
も、5月には融雪と大雨による増水、また10月には大雨による増
水と、2度に渡って内水が氾濫し、洪水被害が発生しました。洪水
は土地や家屋など、個人の貴重な財産を滅失させるばかりか、時に
は尊い人命までも奪い去る大変恐ろしい災害であり、流域住民は、
大雨のたびに不安にかられながらの生活を余儀なくされているとこ
ろであります。

これらの問題の解決のために、洪水時には、川全体の水位が非常
に高くなってしまうという状況から、もはや個別の対応で改善でき

るといったレベルではなく、根本的な対策が必要であると考えます。サナルダム建設によりまして流量の調節が可能となれば、これらの問題は解消され、流域住民は安心して生活することができます。

ご提示をいただきました天塩川水系河川整備計画の原案、これにつきましては、河川管理上、最も重要であると言える、洪水調節による流域の安全確保という点についての的確な検証がされていることと明確に言及がなされていること。以上のことから、原案について賛同するとともに、計画の推進を強く希望いたします。

今後は、この計画に基づき、一日も早くサナルダムの本体着工がなされることを、流域住民として切にお願い申し上げまして、意見公述とさせていただきます。

＊井 田

小林さん、どうもありがとうございました。

続きまして、下川町よりお越しの末武義久さん、どうぞよろしくお願ひします。

＊末武義久

下川町サナルダム建設と町の活性化を図る会の会員であります末武です。提出いたしました意見書と重複することもございますが、お許しいただきたいと思ひます。

天塩川は、我々生活していく上での機軸となる重要な河川であることは、ご承知のとおりでございます。天塩川の支流、名寄川の上流に位置する下川町に住んでいる者でございます。その名寄川並び

に支流サンル川が、ただ今小林さんからも申されたように、5月と10月に出水して、農業者と住民、また一部道道が通行止めになるというような被害がございまして、地域住民に脅威をもたらしたことは、テレビ・新聞報道で皆様ご承知のとおりだと思います。

このようなことから、名寄川の上流に住む私たちにとりましては、一日でも早く、天塩川、名寄川流域で生活される方々、特に名寄市に生活される方々の生活用水として、安心・安全を守っていただくためにも、天塩川、名寄川の整備とサンルダム早期本体着工を願うものでございます。

さて、21世紀、地球温暖化で気象が凶暴化し、過去100年では0.6℃も上がったとされておることが聞かされました。100年後にはプラス4℃に上がり、北海道が関東北部と同じ気候になるのではないかというふうにも言われております。そうなれば、農作物も変わってくるであろうし、稲作の北限ももっと上がってくるのではないかというふうに考えられます。

これから一番大事なことは、食糧自給率40%と言われております日本の食糧と、エネルギーの自立であることは、誰もが考えておるところでございます。このことから、将来の水瓶となりますダムを持つことは大切であると考えるとき、温暖化で雪解け水が少なく、早く海へと流れてしまい、農業用水を安定的に取り入れるためには、やはりダムが必要ではないかと思うところでございます。

長野県では、昨年の水害で脱ダム宣言をしました。温暖化により、雪が降るには、北海道と東北の北部だけになるのではないかと一部で言われております。雪解けもどんどん早くなり、役に立たない

まま、雪が解けて水が海へと流れていってしまいます。オーストラリアでは大干ばつが起こり、水源不足が大変な問題となっております。このために、北海道の特産とも言われますマトン、ラム肉等がその間に値上げをされております。

そのようなことから、将来を見据えた先の、なかなか目に見えない、また実感できないという今こそ、インフラ整備は絶対に必要であると考えております。川幅を広げるのか、農地を犠牲にしても遊水地を造るのか、ダムを造るのかは、地域に住む多くの方々が選択されることと思いますが、私個人の意見といたしまして、ダムが一番この地域にとりまして有効であり、ダメージが少ないのではないかというふうに考えております。

私たち川上に住み、農業、林業を中心に生活している者と、川下で漁業を中心に生活している方々と、天塩川流域に住む者として、ともに考え、ともに知恵を出し合いながら前進していくことが必要だと思っております。

治水・利水に関しましてもいろいろありますが、持ち時間も制限されておりますので、この辺で終わりにさせていただきたいと思っております。

ありがとうございました。

*井 田

末武さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、剣淵町からお越しの高橋 毅さん、どうぞよろしく願いいたします。

＊高橋 毅

天塩川の上流域で剣淵川という川があります。その剣淵川に注ぐパンケペオッペ川という川のすぐ麓に住んでいます高橋毅というものです。

先ほど来、皆さん方が洪水の話をされています。私のところも、パンケペオッペ川が氾濫して、何度も洪水に遭ってひどい目に遭っています。ところが、洪水のない年は、川の氾濫で、長年積み重ねられた肥沃な土によっていい収穫物ができる。だから洪水のある年、洪水のない年で、私のうちの生活は随分変わったんです。ですから、親はどっちかという博打打ちかなと、正直思うぐらいな洪水あるなしの影響があったわけです。

そういう中で、私たちは、大雨が降って洪水が出たときにどうやっているかということを、皆さんにちょっと聞いていただければと思います。

昨年度も、集中豪雨が降ったときに、一番最初に名寄川が警戒警報、洪水が出ました。そして雨竜川が出ました。それで、これはかなりの水量になるなと思って、私たちのパンケペオッペ川、そして上流に小沢川という川があるんですけれども、そこがどうしても洪水が起きる地域になります。そのときに私たちがまずやることは、水田に、ちょうど8月ごろは水を切る時期なんですけれども、そのときに一回水をためる、水口のところにふたをするんです。水田にまず天然のダムのように水をためるようにして、下流に水を流さないようにするんです。そして、その後は、クワやなんかを持ってい

って、排水の土管のところに変な物がくっついて、そして水がそこで止まってしまうのを防止するための、そういう作業をします。それで、堤内の排水の水がスムーズに川に流れ込むように、それが川の水面が堤内の排水より高くなったら逆に樋門を閉める、そういう作業を地域の人はいそいでするわけなんです。

その洪水の発生する頻繁度というんですか、それは河川改修、川底を広げたり、そういうことをすることによって、そういう被害の確率は非常におかげさまで減ったんです。でも、昔、私らの親、そしてまた親戚のうちでは、洪水になると思ったときに、一番先に汲取便所のふたを外側からビニールで覆うんです。そして、自分たちがウンコをする、そここのところもビニールでふさいで、ぎりぎり巻きにするんです。家の中に水が入ってきたときに、ウンコがその水面と同じように浮遊するんです。そういう状態に水害になったときになるんです。だから、そういうことまでして、その地域で私たちが住んでいるときに、水害のときに何をするかということを考えているんです。でも、先ほど言いましたように、肥沃な土地でありますから、私たちはその土地を離れることはできません。

私も代々農業をやっていますし、私の子供、孫も、恐らくここで農業をやり続けることだと思います。そのときに、川と仲よく付き合っていかなければならないんです。

先ほども松浦武四郎さんの話をしました。幕末のときに天塩川を探検して上がってきたときに、アイヌの人たちと仲よく話をして、そして探検を進めていきます。そのときにアイヌの人たちと仲よくして、それぞれの地名をつけて、そして探検を進めていくと同じよ

うに、私らが川と仲よくして、ここに代々住み続けなければならないと、正直思っています。

それで、今パンケペオッペ川の上流に西岡ダムというダムを造っているんです。それは私たち地域の水害を守る、地域から水害を守るということと同時に、剣淵の流域の生活用水、飲料水の確保の面もあるんです。私自身、川のそばで生活をしているので、川のところにサケやマスが上がるのを見るのも楽しみですし、アオサギが川の中でいろんな魚をとるのを見るのも非常に楽しみにしています。でも、基本的に自分たちがそこで住み続けるためには、洪水があってはならないんです。洪水があることで、農村の人たちがどんどんここを離れていく、そういう現実もあるわけです。ですから、私たちは、この川とずっと仲よく付き合っていくためにも、ぜひ治水とあわせて治山も必要だと思うんです。山に木を植えて、山から流れ出る水の量を減らすことも大事ですけども、基本的にはダムを造って、生活用水と、先ほども言っていましたけれども、農業用水がこれから不足することも含めて必要だと思っています。

私のすぐ近くに●●●●というおばあちゃんがありました。●●●●の●●●●という字を書くんです。その●●●●さんも非常に水害で苦労されて、水害さえなかったらと、よく言っていました。皆さん方も、この地域に住む者として、水害のそういう辛さから解放されるような形の中で生活ができればと思っています。特に水害が多かった私たちの地域の体験から話させていただきました。

どうもありがとうございました。

＊井 田

高橋さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、音威子府村からお越しの千見寺恒昭さん、どうぞよろしくお願いいたします。

＊千見寺恒昭

NPO法人天塩川リバーネット21音威子府支部の千見寺です。

私は、意見書を提出した、その原稿をそのまま読んで終わらせていただきたいと思います。

近年の異常気象により、予測不可能な自然災害の発生が多発し、その被害も莫大です。天塩川流域についても、洪水等の確率が高くなることが予想され、流域全体が山地に面しており、地形的な条件に適した早急な治水対策、防災拠点の充実を図ってほしい。

また、河川災害拠点を本村に計画していただければ幸いにも思います。

また、それと並行しまして、自然に優しい環境と調和のとれた河川整備をお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

＊井 田

千見寺さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、下川町よりお越しの羽鳥一彦さん、どうぞよろしくお願いいたします。

＊羽鳥一彦

まず、ご参集の皆様、大変ご苦勞さまでございます。

ただ今ご紹介ありましたように、私は、天塩水系の名寄川流域に位置いたします下川町で議会議員をしております羽鳥と申します。

下川町議会におけるサンルダム建設への取り組み経過を、ここで申し述べさせていただきます。

平成3年9月20日に、下川町議会サンルダム調査特別委員会を設置いたし、平成5年3月までに、サンルダム建設によって想定される様々な事柄について審査を重ね、なおまた平成9年12月17日には、サンルダム建設地のサンル地区に住む住民を中心に設置されましたサンルダム対策協議会からサンルダム建設促進についての要望書が議会に提出され、議会としましては、サンルダムの早期本体着工及び完成に関する要望意見書を議決し、関係大臣等に提出しているのであります。

また、平成18年10月30日には、サンルダムに隣接する4地区の住民代表からサンルダム建設促進を求める要望書が町に提出され、11月9日、議会としても、サンルダム早期本体着工と完成を求める意見書を議決し、関係大臣に提出したところでございます。

そのほか、町と一体となった陳情・要望活動や、毎年付け替え道路等の工事等の進捗状況等も見せていただいております。

申すまでもございませんが、我が国は世界的にも有数の多雨地帯であり、山の多くは急峻で、地形の関係からも河川は短く、雨や台風による水害等が、毎年全国どこかで多かれ少なかれ災害が起こっていることは、ご参集の皆様もご承知のことと思います。

特に最近、我々は地球温暖化による異常気象による予測できない災害の危機にさらされております。また、この夏、集中豪雨がないのかと心配するのは、杞憂ではないと思うのであります。

下川町におきましても、昨年5月には低気圧豪雨が発生し、多い箇所では40mm程度の雨と、まとまった融雪による出水が発生するなり、なおまた同年10月7日から9日の夕刻には、強い暴風と大雨を伴った低気圧が通過し、生育途中の町・民有林等のトドマツ等が一夜にしてなぎ倒され、無残な姿にかわり果てるとともに、私の住む市街地より、おおよそ12km奥の国有林奥名寄林道沿いにある樹齢300年の七色ニレも、低気圧の強風で寿命が尽き果ててしまったのでございます。

また、山沿いの多いところでは、総雨量が200mmを超える雨が降り、河川の水位が一気に上昇するなど、瞬く間に危険水位を超過するとともに、周りの河川付近でも警戒水位に達するなど、下水被害に見舞われ、地域住民に多大な脅威をもたらしたのでございます。

今後、洪水が渇水対策としての治水・水利は、人々の生活や命に関わる深刻な問題としてその重要性はますます大きく、なおまた、我が国が自然災害に見舞われやすいことを十分認識し、万全の備えを固める必要があると思うのであります。

近年は、災害は忘れたころにやってくるどころか、忘れずにやってくると言っても過言でないと思うのであります。サンルダムは、下流170km余りにわたる洪水調整や河川環境の整備、そして既得水利の安全供給と水道用水の確保、更に二酸化炭素を発生しない

水力発電と国内最北のダムとして、地域住民の安全で安心な暮らしを守る、極めて重要な施設であります。

また、環境に優しい循環型林業経営の基盤を確立しているサンルダム周辺の森林については、21世紀森呼吸の森林と位置付け、交流の場や学習の場、そして癒しの場として、将来完成するダム湖及び道道を含めての一体的な周辺整備を進める考えでございます。

このことから、私は国家的大事業であるサンルダムの早期本体着工と早期完成を強く願うとともに、天塩川流域に住む一人として、一刻も早く河川整備計画が実行されることを強く切望するものでございます。

以上申し上げまして、私の意見公述といたします。

ご清聴、ありがとうございました。

*井 田

羽鳥さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、下川町よりお越しの濱下伸一郎さん、どうぞよろしく願いいたします。

*濱下伸一郎

名寄川の上流部に住む町民の一人として意見を述べさせていただきます。

近年、地球温暖化により、過去100年で0.6℃温度が上がっているということは、皆さんご存じのことと思います。このことにより、気象が凶暴化しております。また降雪量も減少し、雪解けが

早くなり、何も立たない、冬にどんどんと雪が海へ流れていっております。

これからは、治水と利水が重要な課題になっております。利水効果の発現が早期に期待でき、社会的影響も少なく、事業費が少ないため、経済的で治水対策に優れているサンルダムの建設の早期完成を、上流部に住む者の責任として熱望いたします。

あと、いろいろ考えてきたんですけれども、いろんな方が同じようなご意見を述べておられますので、ほかのことについては割愛させていただき、要点のみ述べさせていただきます。

どうもありがとうございました。

* 井 田

濱下さん、どうもありがとうございました。

続きまして、美深町よりお越しの林 寿一さん、どうぞよろしく願いいたします。

* 林 寿一

ただ今紹介いただきました美深に住む林でございます。

私は、商業人という立場からここに立たせていただきまして、意見を公述させていただきます。

美深町は、農業を基幹産業とする町でありまして、その農業も大変幅の広い農業であります。畑作あり、水田あり、それから酪農あります。つい最近では、ビニールハウスによる野菜の栽培も大変盛んになりまして、町を挙げて、それから農協とタイアップして、それ

らにも取り組んでいます。そのために、天塩川水系から受ける恩恵というものは、大変大きなものがございます。

それと、最近、どこの町でもそうでしょうが、アウトドア指向が大変はやってきました。美深町においても、天塩川本流によるアウトドア指向が大変盛んになってきました。皆様、こちらにいらっしゃる方でしたらご存じでしょうが、こちらから行くと、恵深橋というのが美深のすぐ入り口にありますが、そこにカヌーポートがございます。それから国道40号線をずっと行きますと美深温泉というところがありまして、そのところにもカヌーポートがございます。その天塩川本流をずっとカヌーでおりると、約15kmの行程ですか。その中に鏡のようになだらかな水面もあり、かなり波立つ変化のある流れもあり、そこにカヌーを楽しむ方が最近だんだん増えてきております。意外と道外の方が多いようにも見受けられます。また、そこに関わる商業としようかという方も生まれてきております。

そんな中で、天塩川水系は大変観光にも役立っているんです。それと、美深観光協会で天塩川の本流による水遊びの一日を行っております。天塩川いかだ下りコンテストなるものがありまして、近隣市町村の方の参加が大変多いんです。いかだにいろいろ工夫した仮装を凝らしてコンテストを行いまして、それが終わりますと、ちょうど町の近くの河川敷でリバーサイドジンギスカンですか、リバーサイドパーティーなるものをやりまして、8月、真夏の日を大変天塩川とともに楽しんでおります。

ところが、天塩川、昨年度は美深町の低気圧の影響で、いろいろな被害を受けました。それから大雨による洪水、それから融雪時の

増水による大変な心配、そういうものもございます。水害というものは、ほかの災害と違いまして、大変根強いものがあるのではなからうかと思ひます。農家の方たちが大事にする表土を全くもって削り取ってしまひまして、ほかの災害から見ると、その被害は多大であると思ひます。そして、それをもとに戻す、復興にも大変なお金がかかるのではなからうかと思ひわけでありまふ。

このような不安をなくするためには、この流域地域の方々が団結して上流のダム建設、それに努力するべきではなからうかと思ひんです。その点で、サンルダム建設は極めて重要な多目的ダムとして位置付けられております。本体工事着工は緊急を要するものであると私は思ふのであります。

それに、皆さんご承知であらうと思ひますが、美深温泉というところがございます。あの建っているところはアイランドということで、美深のレジャー施設の最大拠点となっております。あそこに建っているのは、国道の方に三日月湖がありまして、それから温泉施設があります。その温泉施設には、サッカー場があり、野外ステージがあり、サマーゲレンデがあり、当然パークゴルフ場もあります。テニスコート、それからコテージが4棟と、そういう多彩なレジャー産業、そして温泉があるわけです。そういうような地形でありますから、そこは水につくことになる大変なことになります。美深町は観光を重大活性化事業として考えております。そういうことですから、治水ということには大変興味があります。戦国時代から言われますが、水を治むる者は国をも治むるという言葉は、私は今でも十分通じることではなからうかと思ひます。

いろいろとこういうような会議の中で、反対意見が少々あるようにも聞かれます。私はこういうような場所での反対意見というのは、大変必要なことだと思うんです。反対意見なくして本来の考え方というのは進まないわけであります。ですから、関係者の方に反対意見を十分尊重していただいて、本体工事に向かって十分に努力されて、早期サンルダムの着工、それから63年から取りかかっています工事計画を早急に進めていただきたいと思うわけであります。

以上で終わります。

＊井 田

林さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、下川町よりお越しの布施 渉さん、どうぞよろしく願いいたします。

＊布施 渉

下川から来ました布施と申します。

去年、春と秋、名寄川とサンル川の増水がありまして、下川の下水道の終末処理場が、名寄川とサンル川のちょうど合流点付近にあります。通常、その排水は、名寄川に排水しているんですが、名寄川、サンル川の増水のために、警戒水位を超え、排水路から川の水が逆流してくるために樋門を閉めなければならない状態になるんですが、そのために処理場を停止しなければならない状況になると思います。処理場が停止するとなると、下川町の住民は、水道は使えるんですが、使った水を今度排水することができなくなってしまう

うんです。水は出るけれども排水ができない。そうすると、事実上は水が使えない状態になる状態になります。終末処理場を稼働させておくのには、排水溝にポンプを入れて、ポンプにて水を今度名寄川に移さなければなりません。その作業が24時間、それが警戒水位を超えるまで続けなければならない作業なんです。そのためには、余分なお金も使うでしょうし、暴風雨の中の作業ですので危険も伴いますので、この作業も余分なことだと思います。

また、下川町の上名寄地区でも、名寄川の増水のために樋門を閉めなければならなくなり、畑や山から出てきた水が場所を失い、農家さんが精魂込めて作った農作物が水につかって製品にならなくなり、大変な損害になったと思います。

この2度の増水時に、終末処理場、下川町、上名寄地区2カ所、全3カ所になるんですが、自分もポンプアップ設置などを行いました。が、このときに思ったのが、サンル川の水が余分だなと。サンルダムさえあれば、名寄川の増水も軽減され、農作物とかに被害も少なく、または被害が出ないかもしれません。サンル川の増水したところは、皆さん見たことがあるでしょうか。今回の春と秋の部分なんです。すごい水の量です。黙って見ていると、名寄川より水量があるんじゃないかというぐらいの水の量です。その水をダムにて調整できれば、そういう被害も少なくなると思います。

また、自分も釣りをするんですが、最近釣り雑誌等で、サンル川や下川町内の川がたまたまよく紹介されているんですが、特にサンル川のサクラマスの保全等の記事がよく載っております。この記事を見て、多くの釣りをする人たちがサンル川を訪れていますが、確

かにサンル川はヤマベが釣れる川としてここ最近は有名ですが、サンル川の子マベは、名寄川に合流する下川町付近の支流の子マベよりは引きがよく、元気のいい魚です。その魚を求め、旭川や札幌、いろいろな地方の方がサンル川に釣りに入っていると思いますが、時には100匹以上も釣り上げている話を聞いたり、ビクからその魚を出した写真を見たりしますが、その中には、5cmにも満たない子マベとかもいます。自分の話なんですけど、自分になるべく10cm以下ぐらいの子マベは川に放すようにしています。単純に言いますと、もうちょっと大きい子マベが釣りたいというだけなんですけど、子マベは人が触ると弱ってしまう、死んでしまうとか言いますが、釣り上げてビクに入れてしまうと、それでその子マベはもう終わりです。例えばその子マベを川に戻してあげれば、生存確率は低いかもしれませんが、生き残るかもしれません。もしその子マベが大きく育ってサクラマスとして出会うかもしれません。ただ針にかかったからといって、ビクに入れてしまうのはどうかなとは思いますが。そんなことでサクラマスを守れるのかなと。

サクラマスといっても、所詮は、所詮と言ったら悪いんですけど、子マベが海におりたものです。そういうことでは、サンルダムが完成する前に、サクラマスの保全というよりは、サンル川から子マベがいなくなってしまうんじゃないでしょうか。雑誌にいろいろそういう保全だとかと紹介されていますが、かえって子マベだとかサクラマスにとっては、たくさん釣り人が入り、環境が悪化しているんじゃないかなと思います。サンルダムを完成するときは、しっかりと魚道、サクラマスのための魚道を造ってくれると思います。

自分は余りそういう専門家ではないので、どういう魚道がいいかとかは開発局の人たちが、その専門家の方がよくお分かりだと思います。ダムを造って、ダムの中でヤマベが増え、大きくなり、例えばですが、漁業権でも発行して、一日何ぼ、シーズン何ぼでお金をもらい、その部分で少しでも町にお金が入るでしょうし、雇用の場もできるでしょうし、また、その収益の中でヤマベの放流もできると思います。そういうことも考えまして、もう時間なのでこれで終わりますが、そのためにも一刻も早くダムの完成を願っております。

＊井 田

布施さん、どうもありがとうございました。

続きまして、天塩町からお越しの前山信春さん、どうぞよろしく願いいいたします。

＊前山信春

天塩から来ました前山と言います。漁業者です。

ちょっと場違いなところに来たのかなというような気もしますが、けれども、さっきも言ったように、反対意見が欲しいというような内容もありましたので、ちょっとうちの方の下流の事情を説明したいと思います。

ここ数十年、50年、40年前から、漁業者、祖父、親父の代から、組合の理事者がいろいろ開発と協議して、いろいろ治水を守るために河川改修、堤防など、あと岩尾内ダム、吉岡ダム、いろんなダムの工事にも協力をしてきました。確かに治水という面から、い

ろんな面で川を守らなければならないのは、お互いに私たちも、ここ最近の台風、それから低気圧、異常気象、漁業者も同じなんです。気象に関しては、いろんな問題を抱えております。

さて、うちらはここ近年30年、40年もいろんなことをやりながら、天塩川の氾濫、洪水、大変ありました、浸水など。その中でいろんな協力を得ながら、いろいろ開発さんに協力してきましたが、近年、うちの事情といっっては何ですけれども、サケ・マス、サクラマス、いろんな川に関する魚介類、シラウオ、ヤツメ、イトウもそうですけれども、あと、今うちらでは、天塩で名産としておりますシジミ貝、それが近年は、10数年前は今の漁獲量の4倍ぐらいありましたが、今は4分の1、水揚げでいえば3分の1、金額でいえば3分の1です。川のと、ワカサギだ、ヤツメ、シラウオもありますけれども、そんなのも激減しました。

その中で、私らの言いたいのは、上流の方、農家の方々の意見、私らも同じ氾濫、洪水で大変被害を受けていましたから、考え、治水に至るところは同じなんですけれども、ただ、農業さんの補助を受けていろいろな整備の中には、漁組の場合は、海、川、また農業さんは土地ですね。土地は守ることはできませんけれども、川、海は上流から結局水が流れてくるものですから、それを守るということが非常に難しいんです。その中で水揚げも減っていく中、いろんな反対意見がなければあれかなと思って、一漁業者としてここへ来させてもらったわけですけれども、そんな中、私らは治水、洪水を守るのは何も反対はしません。ただ、その中に開発さんのいろいろ出した資料の中には、まだまだ過去の、うちらが協力してきた洪水、

氾濫、浸水、水害を守るための中で協力してきた中の提示の資料の中に、皆さんもそうなんですけれども、しゃべることが昔のことばかりなんですよ。うちらはここ何年か、川の氾濫というのはなくなってきたんです。ただし、土地の低いところなど、異常気象によっては、また雨の多く降ったときは、川の周りの狭いところ、低いところ、急カーブ、それらは音威子府、美深、名寄のさっき言っていたところもそうでしょうけれども、それは確かにあると思います。だけれども、それが一概にダムで防げるのかといったら、うちらは前から提示している士別の方、名寄より上流の方、そんな中の方が新しい水害が起きているんです。何で岩尾内、吉岡、いろんなダムどうのこうのと言いますけれども、では何で起きるのという、まだ何かいろいろ方法があったんではないのかなと。例えば今の温暖化ですから、水力発電だけに関して言うのであれば、まだそれはいろいろいいと思います。だけれども、そのほかのただの治水を守るための洪水対策というより、いろいろな工事の面から、堤防、また土地の低いところ、そういうような川の幅の急カーブ、狭いところ、いろんな面を見直して、まだまだ考えるというか、いろいろ直していく余地があるのではないかと思うんです。それを今ここでダムということになりまして、ダムだけに走ってしまっているものだから、ちょっとうちらも賛成ができかねるというか、漁業者としては、まだまだダムだけで本当に防げるのかという疑問点がありましたもので、私らは、漁業者としてもいろいろ考えている次第です。

ただ、私は一漁業者ですけれども、組合からは、まだ開発さんとのそういう正式な話は組合員との懇談ありませんし、今回もそう

ですけれども、うちの周りの方では、確かに浸水だ何だありますけれども、下流域では洪水という面では結構直ってきているので、堤防だ何だ、そういう面からも結構今やっていますので、そういう面で直せるところがあるのであれば、そういうこともしながらやっていくという中で、ダム一本で走るというのは、ダムの使い道はまだいろいろあると思うんです。洪水だけというのは、私らにしては納得がいかないんです。だから、そこのところもよく調べて、調査して、もう一回新しい資料を出して、持ってきてくだされば、漁業者もいろいろ納得する面があると思うんですけれども、今の段階では、余りにも過去のことばかり言って、先のことを見ていないような気がするものですから、私らは、ただ、現時点では賛成できない。

そして、ちょっと悪いんですけれども、まだもう少し言わせてもらいます。魚道だの何だの話が出ていますけれども、ここ名寄さんの人、結構、場違いなもので、この中に来てしゃべるのもあれですけれども、魚道なんかでも専門家が考えて、名寄のそっちの山に行って実際魚道を見てきてください。本当に魚道と言える魚道を造っているかどうか。あそこはどこの山でしたか、ちょっと今覚えていませんけれども、本当に税金のむだ遣いというか、ただ工事やればいいのか、本当に専門家が考えたのというようなのが名寄に何ぼもあります。ほかのところも、砂防ダムだ何だでいろんなむだなものがあります。税金を使うからには、きちっとした命を守る治水対策をしながら、きちっと効果のあるものを考えていただければ、うちらも協力できると思います。

もう一つ、確かにダムで防げる面もありますけれども、名寄上流域で結構工場排水だ何だありますけれども、サンル川のようなきれいな川が混じって、薄めて、下流域に何ぼかきれいな水を流していると思ってください。製紙工場だ何だ、いろんなものがあります。その排水を見てください。それを下流域で使っているんです。それをお願いします。

以上です。

*井 田

前山さん、どうもありがとうございました。

続きまして、士別市よりお越しの丸 すみ子さん、どうぞよろしくお願いいたします。

*丸 すみ子

このたびの意見を述べさせていただくにあたりまして、私は専門的なことは全く分かっておりませんので、自分が小さいときから川に対する思いがございますので、それを意見として述べさせていただきます。

私は、人を育む学習の場に川を活用したいという思いがございます。最近、耳や目を疑いたくなることが頻繁に世の中で起こっておりますが、人と人のつながりの欠落から大きな事件につながっているのではないかと思います。

私が子供のころの昭和30年代の川は、住民の憩いの場はもちろんのこと、子供たちにとっては、自然の中での釣りや水泳などの遊

び場でもあり、遊びを通じてのコミュニケーションの場でもありました。水がきれいであり、川の流れも緩やかで、場所によっては素潜りをし、蛇籠と蛇籠のすき間にいるウグイやドジョウをとって、お昼のおつゆの具材にするべく、大きな石のかまどを作って炊事をし、帰りには子供の手のひらに余る大きなカワトンボやキリギリスをとって家に持ち帰り、夏休みの自由研究にした、なつかしい思い出がございます。

今の子供たちには、川は危ないから近寄らない場所と、大人が決めつけてはいないでしょうか。水に触れながら、川の恵み、水の大切さを身を持って体験できるような行事を流域住民と行政とが協働で行うことで、大きな自然の恵みから、心豊かで犯罪のないまちづくりの一つになるものと思います。

豪雪地帯と言われております土別地方では、国道40号線では流雪溝、国道より東地区の市道では流雪槽が供用されており、地域住民が時間になると、歩道脇でスコップ片手に投雪をしている姿が冬の風物詩となっておりますが、これらは上流であります岩尾内ダムの建設によるものと思っております。

一部、ダムの建設は過疎につながるとの声も聞かれます。確かに朝日町においても、当時の似様地区の集落がなくなっており、人口の減少の要因となっていると思われませんが、それにかわる大きな恩恵もたくさんあります。国道40号線の、特に中心市街地においては道路沿いの雪もなくなり、見通しもよくなり、通行する住民の冬期間における交通事故等がほとんどなくなっております。また、商店街の店先はすっきりしております。西地区には、市内経済に大き

く貢献をしております製糖工場が工業立地をいたしておりますが、ビートの洗浄による汚水処理についての環境問題に即応できる施設建設も、岩尾内ダムがなければできなかったのではないのでしょうか。市内での工場の存続も危惧されたのではないのでしょうか。

士別市は、全道でも屈指の上下水道の完備された町として、住み良い環境となっております。水が出て当たり前、水が使えて当たり前、災害がなくて当たり前、それら全てがあって当たり前のような今日ですが、川、特に天塩川の水の恩恵については、昨年の春に河川防災ステーション、めぐみが建築されており、その名のとおり、水の恵みについて、もっともっと流域に住む住民、老若男女を問わず、学んでいく場となるための天塩川の活用ができる整備計画を望んでおります。

*井 田

丸さん、どうもありがとうございました。

引き続きまして、下川町からお越しの道原伸也さん、どうぞよろしく願いいたします。

*道原伸也

天塩川流域の最上流に位置する町の住民として、そして、
として意見を述べさせていただきます。

安全で安心な町と考えたとき、交通事故がない、非行や犯罪がないなど、いろいろな事柄が思い浮かびます。しかし、これらは、行

政や地域住民の努力により解決できるものです。ただ、たった一つだけ、どんなに努力しても解決できないことがあります。いつ起こるか分からない自然災害から町や人々を守ることです。サンルダムは、洪水調節、水道用水の確保、発電、河川環境の保全等を目的とした多目的ダムとして建設が予定されておりますが、私は特に流域住民の洪水防止と利水が最大の目的と承知いたしております。

近年の地球温暖化によると思われます異常気象が原因かどうかは分かりませんが、ここ数十年間、何事もなかったこの天塩川流域が、大きな被害に見舞われました。それも1年間に2度にわたってです。

皆様ご承知のとおり、昭和48年夏の大雨による川の増水・氾濫、最近では、前段に述べた、昨年5月10日から11日にかけての低気圧、融水による異常出水、10月7日から9日にかけての低気圧による洪水により、流域に住む私たちが大変な被害に遭ったことは、記憶に新しいことと思います。

私たち下川町においても、幸なことに人的被害はありませんでしたが、床下浸水に見舞われた家や、一時避難を余儀なくされた家、多くの農地など、貴重な財産が重大な被害を受けました。また、国道や主要道道を含めた生活道路、橋が冠水により通行止めになるなど、住民生活自体が大きなダメージを受けました。

町といたしましても、町内全戸に洪水ハザードマップを配布し、万が一の場合の避難所の指定を行うとともに、毎年避難訓練等を実施したり、日ごろからの準備を広報したり、防災対策は進めてはおりますが、これらは災害が実際起きてしまったときの対策であり、未然に防ぐことはできません。最近の自然災害の多発を考えたとき、

不安だらけであります。住民からは、今年の融雪時期は大丈夫だろうか、また台風や大雨が来たらなど、不安ばかりの話しか聞こえてきません。

天塩川には、山から多くの支流が注がれており、台風や融雪、大雨災害時には本流自体が増水するため、これら支流の水をのみ込めなくなり、内水氾濫を起こすのであります。この内水氾濫こそが、最近の災害の主原因です。大きな被害を受けている地区は、堤防等は万全に整備されておりますが、川底が高いために内水氾濫を防ぐことはできません。更に、今回の一連の災害では、川自体が各地で警戒水位を超え、この整備された堤防でさえも決壊しそうなぐらいまで増水しました。もし堤防が決壊したらと考えると、本当に不安でありました。これを防ぐとするなら、素人的に考えると、莫大な経費と豊かな自然環境を引きかえにして、総延長256kmにも及ぶこの大河全体の川底を削り、低くするしかないと思います。到底不可能なことですし、もしそうなったとしても、川はただの水路と化してしまいます。遊水地を造り対応するとしても、それ相当な農地を犠牲にしなければなりませんし、一体どこに造るのでしょうか。川が氾濫する場所なんて、誰にも想定はできないと思います。天塩川流域の豊かな自然環境を損なわず、程度の経費で流域住民が将来にわたって、安全で安心して暮らしていける地域をつくるための解決策はただ一つ、それはサンルダムの建設しかありません。このような思いは、実際にこの地で生活している私たちでなければ分からないし、地域住民の総意だと思います。

天塩川水系河川整備計画の実現、そして、その中心となるサンル

ダムの本體早期着工完成を心より切望いたします。

以上で意見を終わらせていただきます。

＊井 田

道原さん、どうもありがとうございました。

続きまして、下川町からお越しの簗谷省吾さん、どうぞよろしく
お願いいたします。

＊簗谷省吾

下川町の簗谷と言います。

私は、河川整備計画原案を早期に実現していただきたいと思っています。とりわけ下川町は、治水対策としてのサンルダムを建設する地先であります。これまでの流域委員会の中での議論からも、サンルダムによる治水対策が、費用、効果の面で最も有利な方法だと思っています。

また、魚道の設置やスモルトの降下対策など、今後も資源保護のために、調査、研究を行っていくということですので、十分な検討が講ぜられるものと期待しております。

今年に入ってから、滋賀県が二つのダム建設を容認すると方向転換をし、また、長野県でも脱ダム宣言を取りやめました。ダム建設を進めていくという方向転換をしました理由には、長野県では、一昨年大雨のときだったと思いますが、ダムにより治水対策が行われたために洪水被害に遭わなかった地域と、ダムがなかったために洪水被害に遭われた地域があったということです。そのようなこと

から、方向転換になったのではないかと考えております。

人命・財産を守り、そこに住む人が安全で安心な生活を送り、地域が成り立つことが、地域づくり、地域振興の上で一番最初の条件であり、何よりも大切なことと考えています。また、そこに住む人の権利とも思っています。

近年、地球温暖化による異常気象が随分と取り沙汰されています。下川町は、昨年、今までにない洪水に見舞われました。例年だと秋に河川が増水するのですが、昨年は春と秋の2回にわたって道路が冠水し、通行止めや交通規制がかかり、畑が水について農作物に被害が出ました。また、住宅にも水が迫るなどの大変な状況にもなりました。春の増水のときに、私は町内のサンル川だとか、至る所の状況をちょっと確認したのですが、増水して堤防を今にも超えそうなサンル川を目の当たりにしたときに、自然とは本当にすごいものだと驚きました。その夏、サンル川に釣りに出かけたんですけども、中州に流木が引っかかり、なかなか上流にすり上がることができない状況でした。また、川岸の木も倒れたり、流木が引っかかりたりと、景観上も余りいいという状況にはなっていませんでした。このような状況を目の当たりにすると、流木が河口に流れ着いたときに、河口の漁業に被害が出るということは、容易に想像することができました。

私は、これまで森林には保水力があるということは聞いていましたけれども、昨年流域委員会を傍聴していて、水田にも治水能力があるということを初めて知りました。森林にも農業にも治水能力があるということですが、それでも異常な出水には限界があるという

ことですので、やはり治水対策は必要不可欠だということも理解できました。

更に、利水の面から、農家の方の水に対する強い思いも知ることができました。昨年9月、住民団体が名寄市で開催した講演会では、中名寄地区の農家の方たちが、今後水田の規模を拡大するということで、水利権がますます大切になるというお話をしていました。治水と利水の両方が必要であり、一度にその問題を解決するためには、やはりダムの効果がすばらしいのではないかと考えています。

河川整備計画原案の中でも、河川の連続性について触れていますが、現在天塩川本流・支流にかかる堰堤や砂防ダムについても、関係機関、団体が連携を図りながら、魚道を設置したり、老朽化した砂防ダムを撤去するなど、河口から源流までの連続性を保つ取り組みが計画的に進められています。

下川町内でも、名寄川本流の奥名寄にある魚止めの大きな砂防ダムがあったんですが、何年か前に取り壊されておりまして、現在はサクラマスが遡上して産卵もしていると聞いています。また、名寄川支流のパンケ川でも、名寄川との合流点から、最初にあった砂防ダムが既に取り壊されておりまして、今後サケやサクラマスの産卵に、ますますその効果があらわれるのではないかと期待しているところです。

この天塩川流域では、昔から森林管理を行い、森を育て、食糧自給率の向上のために農地造成や農地改良が行われ、サケ・マスのふ化事業なども行われています。各種地域産業の振興策が図られ、より良い地域づくり、まちづくりが進められて、これまでの歴史がつ

くられてきたと思っています。

その中で、私たちは流域の環境も十分に生活の中で感じて暮らしているつもりです。今地球温暖化対策が大きな問題として叫ばれていますが、下川町は森林整備に力を入れ、バイオマスボイラーを導入し、二酸化炭素削減計画を策定し、二酸化炭素の抑制を図るなどの取り組みを進めています。まだまだ十分な取り組みではないかもしれませんが、今下川町としてできる範囲のことは、いろいろと取り組んでいるのが事実です。

サンルダムは、二酸化炭素を発生しない水力発電を行う予定となっており、下川町の取り組みや二酸化炭素の問題にも整合した施設だと思っています。このような一連の取り組みが、今後日本じゅうにどんどん広がるのが、二酸化炭素削減対策になるのではないかと考えています。

サンルダムが建設される下川町では、いかにその地域を活用し、地域づくりにつなげるかを町民の皆さんと検討し、サンルダム周辺整備基本計画案を策定しています。ダム湖の北側には町営のサンル牧場が広がり、東側から南側には、21世紀森呼吸の森林が広がっています。森づくり寄付条例に基づき、全国各地から寄付をしていただいた方たちの思いを、この森呼吸の森林で森づくりという形にしながら、自然に配慮した周辺整備を進めようとしています。

私は、地域の安全・安心が確保されてこそ、地域づくりができるものと思っています。地域の安全で安心な暮らしと地域づくりのために、天塩川整備計画が早期に進められ、利水や治水対策の向上とあわせて、河川環境に配慮した河川整備が一日も早く実現すること

を期待しています。

以上、私の意見として発表させていただきます。ありがとうございました。

＊井 田

簗谷さん、どうもありがとうございました。

続いて、最後になりますけれども、下川町よりお越しの宮丸英之さん、どうぞよろしくお願いいたします。

＊宮丸英之

私たちの生活する天塩川の流域では、かんがい用水、発電用水、水道用水など、様々な水利用がこの天塩川を通してなされております。そして、流域全体を潤しているという点において、天塩川の持つ重要性は非常に大きなものがあると思っています。

また、流域自治体住民の生活環境の安全と公衆衛生の向上という観点からも、将来にわたって、この天塩川の河川環境を守って適切に維持していくということは、大変重要な課題であると考えています。

一方、先ほどからの意見にあるとおり、近年の世界的な異常気象の増加とともに、日本国内においても、ここ数年、様々な自然災害が目立っております。そして、それは我々の住むこの北海道も例外ではありません。河川整備計画原案によると、天塩川流域においては、これまで主に洪水被害が多く発生しているということが分かりますが、この地球規模で見られている気象の変化を考えると、

今後は洪水だけではなく、渇水による被害の増加も懸念されるのではないかと考えています。既に本州各地においては、毎年のように渇水などを原因とする水道水の断水や給水制限などの実施が余儀なくされており、住民生活に大きな不便を強いるとともに、甚大な損害を与えております。幸いにも、これまでそうした事柄は報道を通して見るだけのものでしたが、徐々に現実のものに変わりつつあり、いつ我々の身に直接ふりかかってくるのだろうかという危機感を抱かせるものとなっております。

一方で、人々の生活様式はまだまだ便利さと豊かさを追い求める傾向にあって、水や電気がないといった、そういう危機的な状況に対する意識や準備がなされているとは、到底言えない現状にあるのではないかと考えます。

更に、現在予定されている流域自治体の合併等に伴う給水区域の拡張、また、今後更に多様化するであろう水利用形態等から、流域全体の将来的な水需要を考えると、ライフラインである水道水の水源を確保し、適切に維持していくということは、緊急かつ優先すべき重要な事項であると考えます。恐らく自然災害の脅威は、これからもますます大きくなっていくものと思われます。そのための対策として、我々の生活習慣をより自然に優しいものに見直し、環境保護していくといった取り組みはもちろん必要ではありますが、それと並行して、今後ますます増加していくと思われる自然災害に伴う被害を未然に防止するための対策を講じること、同様に大切であると思います。そのための対策として、サンプダム本体着工を含めた天塩川水系河川整備計画の早期実施を希望いたします。

＊井 田

宮丸さん、どうもありがとうございました。

以上、18名の方の公述が終了いたしました。公述いただいた皆様、改めて、どうもありがとうございました。

本日、公述いただいた内容につきましては、この後、個人情報等に配慮した上で取りまとめさせていただきまして、旭川開発建設部、留萌開発建設部のホームページなどで公表させていただきたいと考えております。その際、正確を期すために、改めて公述いただいた方にご確認をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、本日の天塩川水系河川整備計画（原案）に関する午後の公述を終了いたします。

本当に、どうもありがとうございました。

なお、夕方の公述につきましては、当会場から16時半から開始となっております。傍聴される皆様で、退室し、再入室される方は、大変お手数をおかけいたしますけれども、改めてご記名いただきたいと思いますと考えております。

また、バッグだとかコート等のお荷物等につきましては、各自にて管理の方、よろしくお願いいたします。

以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。

●●箇所は個人情報等に関するためふせています。なお、公述人の氏名はふせていません。

公聴会速記録については、河川管理者の責任において公表しております。